

「マーズ・サイクラーの情報屋 紹介文」

岡和田晃

齋藤路恵＋蔵原大の「マーズ・サイクラーの情報屋」をお届けしたい。

『エクリプス・フェイズ』では、オリジナルが望み、しかるべき費用を支払えば、分岐体を製造することができる。

そのフオークとして生まれた語り手が、ファイアウォールに与えられた任務を遂行するにあたって、謎に包まれたオリジナルの死に向き合うというのが今回の話だ。フィリップ・K・ディックの「追憶売ります」（映画『トータル・リコール』の原作）を彷彿させる作品だが、その中心には、作家のみずみずしい感性が根付いている。

なお、火星周回船マーズ・サイクラーを舞台にした小説は、朱鷺田祐介の「マーズ・サイクラーの帰還」がすでに「SF Prologue Wave」では発表されている。同作とはまた別の角度から、マーズ・サイクラーの住人の視点を借りる形で描写がなされていることにも注目されたい。

本作のメイン・プロットやアイデアは齋藤路恵によるもので、チェックは蔵原大が行

なった。

齋藤路恵は「SF Prologue Wave」や『エクリップス・フェイス』小説「ゲルラツハの恋人」、オリジナル短篇「犬と睦言」を発表している。また、ロールプレイングゲーム『ラビット・ホール・ドロップス i』（グランペール）のメイン・デザイナーとしても知られている。

蔵原大はウィリアムソン・マーレー／リチャード・ハート・シンレイチ編集『歴史と戦略の本質―歴史の英知に学ぶ軍事文化』（上下巻、原書房、2011）の共訳者としてクレジットされている軍事史研究者だ。齋藤路恵とは、「蠅の娘」や「衛星タイタンのあ
る朝」といった作品で共同作業を行なっている。